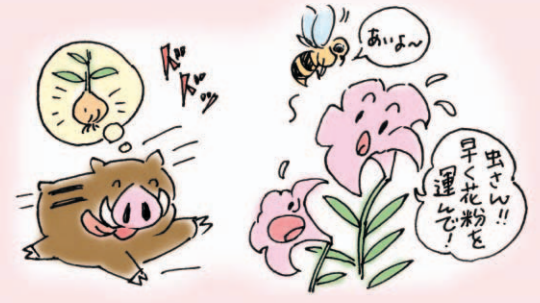


ササユリは美人薄命!?

涼しい木陰にひっそりと咲くササユリは学名をLilium Japonicum (日本の百合)といい、その名のとおりとても美しい花です。ササユリは花を咲かせるまでに7~8年かかるといわれています。しかし花が咲いているのはたったの5~6日で、あっという間に散ってしまう短命さです。まるでセミの一生ですね。

その理由はというと・・・ひっそりと咲くササユリは花粉を運んでくれる昆虫に発見されるチャンスが少ないため、緑の背景に最も目立つ淡いピンク色の花を付けます。しかし、これは逆においしい球根を狙うイノシシにも発見されやすいので、目的(受粉)を済ませばさっと花びらを散らしてしまいます。花を散らしてしまえば、もう見つかることはありません。



ササユリはその名のとおり葉の形・色・付き方、おまけに茎までササにそっくりなのです。

月見の森では柵で囲うなどして、イノシシからササユリを守っていますが、ササユリ自身もちゃんと守る術を心得ているんです。

ここでは、毎年6月から7月にかけてササユリ園を中心にひっそりと咲いている花を見ることができます。散ってしまった後のササユリ

を見つけるのは至難の業、この瞬間を見逃すな!



森を育てる野鳥たち

秋が来て、赤や黄色など鮮やかな色彩の実をつける森の木々は、人の目を楽しませてくれますが、目立つ色は人間のためではなく、鳥を呼ぶための工夫なのです。

木は、すべての実を鳥に食べ尽くされても平気です。それでは木が子孫を残せないのではないかと・・・その心配はいりません。野鳥は、木の実の外側にある果肉を消化するだけで、芯にある種子を糞とともに排泄するからです。新しい研究では、木が自然に落とした実よりも、鳥のお腹を通った実の方が、発芽率が数倍高くなることがわかっています。木と鳥は、お互いの利益となるこの知恵をどうやって相談したのでしょうか。さえずりの小径沿いには、この森に住む小鳥のために巣箱が取り付けられています。さあ、どんな野鳥がいるのかな。観察してみよう。

月見の森で見られる鳥たち



シジウカラ



ヤマガラ



キビタキ

春に海を越えて日本にやって来ます。



オオマシコ

冬にやってくる真っ赤な珍しい鳥です。

発行：海津市役所 農林振興課

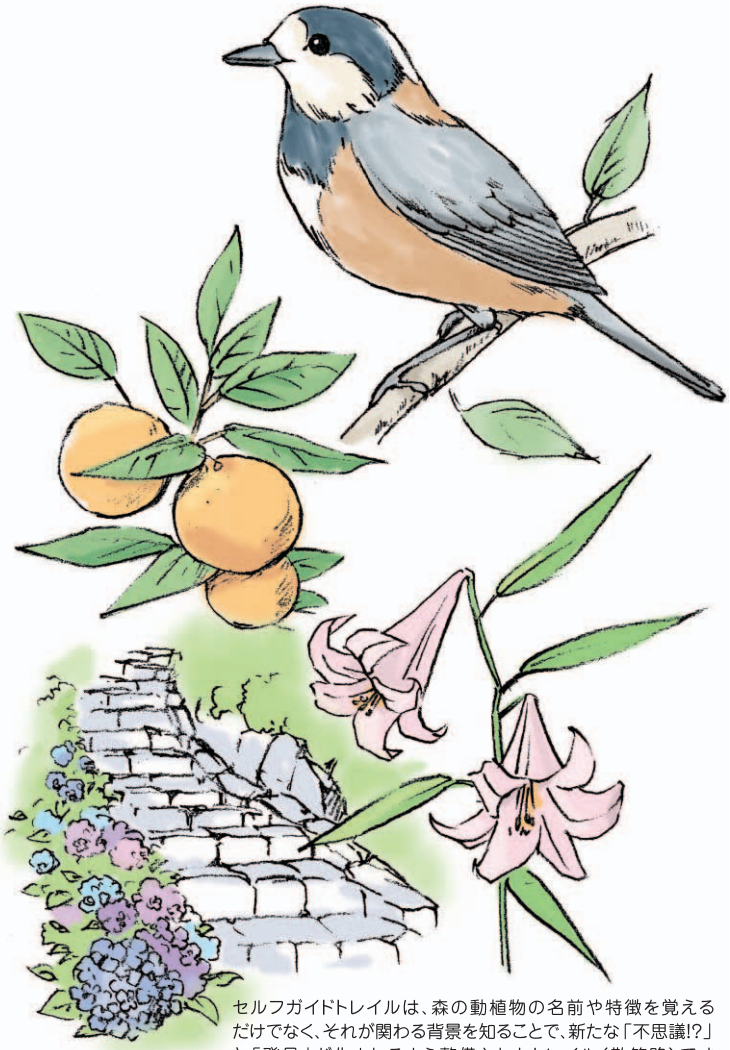
岐阜県海津市海津町高須515

TEL 0584-53-1351 FAX 0584-53-1569

HPアドレス <http://www.city.kaizu.lg.jp>

セルフガイドトレイル (温泉付き) マップ

~辿って伸ばそう「不思議!?’の芽~



セルフガイドトレイルは、森の動植物の名前や特徴を覚えるだけでなく、それが関わる背景を知ること、新たな「不思議!?’と「発見」が生まれるよう整備されたトレイル(散策路)です。